

平成 28 年 12 月 28 日

全国農業協同組合連合会

「食農教育」と「農業」の関心度調査結果

全農は、小学生の親子を対象に「全農親子料理教室」を開催し、平成 28 年度は計 6 回、親子 177 人に参加していただきました。

このたび、その参加した保護者 86 人を対象に「食農教育」「農業」についてのアンケートを実施し、集約結果をまとめましたのでご報告いたします。

アンケートの主な結果

◇参加者全員が、「食農教育」は必要だと考えていると回答。その目的を「子供に正しい食の知識（選択能力・味）を教えるため」と回答したのは 36.8%、「子供に日本の食べ物や農業の大切さを知ってもらうため」と回答したのは 25.6% になっており、「食農教育」に対して深く理解していこうとする姿勢が感じられます。

◇「食農教育」を知るためには、食や食材への関心をとおして農業の大切さを認識していただきたいと考えています。子どもたちに農業の大切さを伝えていくためにどうすればよいかの問いでは、「料理をとおして、米や野菜の出来る過程や、おいしさを伝える」が 33.9%とトップになり、身近な経験をとおして興味や理解を深めたいとする意向があらわれています。

別紙：全農親子料理教室に参加した小学生の子どもを持つ保護者 86 人の「食農教育・農業」への関心度調査結果



食材提供：

全農パールライス株式会社、J A全農青果センター株式会社、
J A全農たまご株式会社、J A全農ミートフーズ株式会社、
全農チキンフーズ株式会社、雪印メグミルク株式会社

「全農親子料理教室」とは

本会は、親子で一緒に料理をすることにより、食や食材の関心を通して農業の大切さを認識していただき、本会の役割及び全農グループ商品や地域の食材をPRし、国産農畜産物の消費拡大に努めています。

平成28年度は小学生を持つ親子を中心に、飯田橋レインボービルで177名が参加し、お弁当作りに挑戦しました。

メニューは、ご飯を中心に季節感や栄養のバランス、日本の伝統食などを取り入れることに配慮し、毎回組み立てられています。

料理は、お米を研ぐことから始まり、材料を切る、焼く、煮る、お弁当箱につめる、片付けまで一連の作業を全員が協力しておこないます。

教室では、本会のグループ各社や本会の職員から日本の農業、食材などの話や食育クイズをさせていただき、参加者に農業や食の大切さを伝えています。



先生に手伝ってもらってにんじんを茹でます



友達と協力して里芋の皮剥き



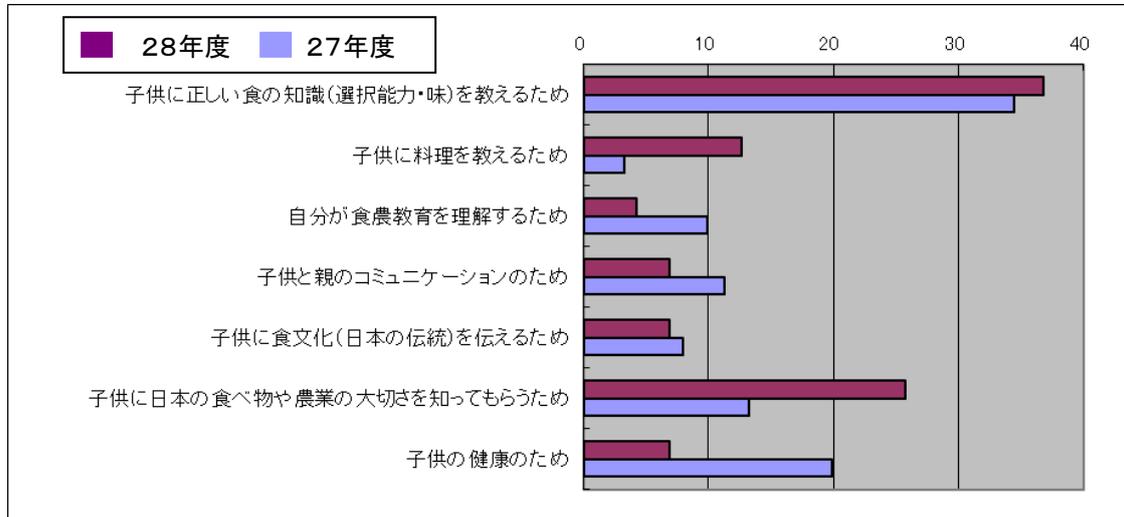
お弁当を自分でつめます



上手にできました

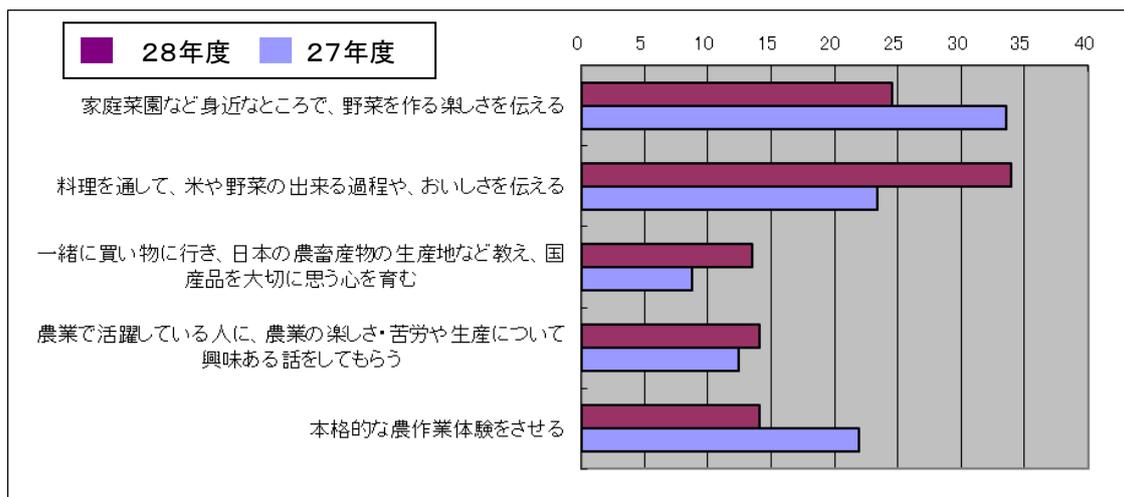


Q 「食農教育」は必要だと回答したのは全員でした。
そこでなぜ「食農教育」が必要だと思いますか？
(回答選抜式)



「子どもに正しい食の知識を教えたい」とする人が36.8%いることがわかり、「食農教育」に対して深く理解をしようとする姿勢が感じられます。

Q 子どもたちに農業の大切さを伝えていくためには、どうすればいいと思いますか？ (回答選抜式)



「料理を通して、米や野菜の出来る過程や、おいしさを伝える」が33.9%と高く、身近な経験をとおして農業への興味や理解を深めたいと考えている傾向がみられます。

保護者たちが日頃の「食」や「農業」について感じていること、「料理教室」に参加した感想は次のような事柄でした。(アンケートよりそのまま抜粋)

- ◆子ども達の可能性を伸ばすような本格的な料理、食のお話で、イベントの質の高さを感じました。でも楽しさもあるワイワイした時間の中で、沢山のことを学ばせてもらえました。ありがとうございました。
- ◆ふだんあまり食べてくれないオクラなども、自分で作り興味を持ったのか、良く食べてくれて驚きました。
- ◆娘は日頃消極的ですが、今日は積極的に料理をしてる姿を見れて、参加して良かったと思いました。

参加した子どもたちからの感想は次のような事柄でした。
(アンケートよりそのまま抜粋)

- ◆自分たちだけで作るのは不安だったけど、お友達と協力して、とても楽しく料理をすることができました。いろんな料理を学べて楽しかったです。
- ◆料理が楽しかった。野菜の話(産地)を教えてもらえてよかった。
- ◆料理のレシピについて学べた。楽しかった。農業は自分たちが食べる野菜を作っていて、自分たちに大切だと思っている。

全農は、「親子料理教室」などのイベントを通じて「食」や「農業」についての情報をお伝えし、安全・安心な国産農畜産物を消費者のみなさまへお届けしてまいります。